

平成 28 年度

事業報告書

公益財団法人三重県下水道公社

< 目 次 >

1 活動概要	1
2 会社の概要	
(1) 設 立	1
(2) 本部と浄化センターの所在地	1
(3) 目 的	2
(4) 事業内容	2
(5) 基本財産	2
(6) 評議員及び理事、監事	3
(7) 組織体制	4
(8) 評議員会及び理事会の運営状況	4
3 事業実績報告	
(1) 流域下水道の維持管理に関する業務	6
(2) 維持管理におけるコスト削減取組	10
(3) 危機管理に関する取組	11
(4) 普及啓発事業	12
(5) 研修事業	15
(6) 調査研究事業	15
(7) 下水道排水設備工事責任技術者認定事業	15

1 活動概要

第3期の三重県流域下水道施設における指定管理者として、平成28年度においても指定管理者指定申請時の事業計画書に掲げた、「使う」「備える」をキーワードにした次の5つの重点活動方針に基づき、事業を展開いたしました。

1) 下水道施設を『無駄なく使う』

省エネルギーを追求、水処理ラインの抑制による保守点検費抑制、薬品使用量の削減

2) 下水道施設を『大事に使う』

機器の運転時間を平準化

3) 下水道施設を『正しく使う』

下水道の使い方の啓発活動充実

4) 下水道施設の『危機に備える』

B C Pの策定、豪雨時の安定運転

5) 下水道施設の『課題の顕在化に備える』

技術者不足への対応、不明水対策

事業活動の概要は、県内5カ所の浄化センター及び13カ所の中継ポンプ場を維持管理し、処理した水量は、75,890,064 m³（対前年比99.9%）でした。

なお、維持管理コストの上昇を抑制する取組などにより、処理単価は50.66円/m³（対前年比97.4%）となりました。

また、水処理の過程で発生する汚泥については、産業廃棄物として年間51,349.85t（対前年比102.7%）を処理しました。ほぼ全量をセメント原料としてリサイクルし、循環型社会の構築に寄与しました。

一方、放流水質は、北部浄化センター及び南部浄化センターにおいて、9月の台風16号による大雨により不明水が大量流入したことから、長時間に亘る併用処理が影響し、一時的に放流水質が悪化する結果となりましたが、その他の浄化センターにあっては、年間を通じて良好な水質を維持し、かつ、下水道利用者への使用制限など、サービス提供が停止することはありませんでした。

2 会社の概要

(1) 設 立 昭和62年7月1日

(2) 本部と浄化センター等の所在地

名 称	所 在 地	供用開始（開設） 年月日
総務課	〒515-0104	—
水質分析センター	松阪市高須町3922番地	平成21年4月1日
北部浄化センター	〒510-8114 三重郡川越町大字亀崎新田80番地の2	昭和63年1月1日
南部浄化センター	〒510-0103 四日市市楠町北五味塚1085番地の18	平成8年1月1日

雲出川左岸浄化センター	〒514-0301 津市雲出鋼管町 52 番地の 5	平成 5 年 4 月 1 日
松阪浄化センター	〒515-0104 松阪市高須町 3922 番地	平成 10 年 4 月 1 日
宮川浄化センター	〒516-0001 伊勢市大湊町 1126 番地	平成 18 年 6 月 1 日
高須町公園 オートキャンプ場	〒515-0104 松阪市高須町 3227 番地の 8	平成 10 年 4 月 17 日

(3) 目 的

この法人は、三重県が設置する流域下水道施設の管理業務を行うとともに、下水道に関する知識の普及及び啓発等の事業を行うことにより、三重県及び県内市町の下水道事業の振興を図り、もって県民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質保全に寄与することを目的とする。

(4) 事業内容

- ア 流域下水道施設の管理
- イ 下水道に関する知識の普及及び啓発
- ウ 下水道に関する調査研究及び研修
- エ 市町への技術支援
- オ 排水設備工事責任技術者の資格認定
- カ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(5) 基本財産 56,000千円

出 捐 者	出捐金 (千円)	内 訳	出捐割合
四 日 市 市	4,014	北部 3,335、南部 679	50%
桑 名 市	3,831		
い な べ 市	729	北部	
東 員 町	529		
菰 野 町	837		
朝 日 町	243		
川 越 町	496		
鈴 鹿 市	4,281		
亀 山 市	1,040		
津 市	4,594	雲出川左岸 4,000、松阪 594	
松 阪 市	3,211	松阪	
多 気 町	195		
伊 勢 市	3,216	宮川	
明 和 町	400		
玉 城 町	384		
三 重 県	28,000		50%

(6) 評議員及び理事、監事（平成29年3月31日 現在）

【評議員 任期：平成25年4月1日から平成28年度に関する定時評議員会終結の時まで】

役職名	氏名	所属及び職名
評議員	木本 凱夫	元 三重大学助教授
評議員	市川 千賀子	三重県食生活改善推進連絡協議会 顧問
評議員	高橋 正昭	元 四日市大学 環境情報学部 特任教授
評議員	伊藤 博子	司法書士
評議員	佐治 輝明	津市上下水道事業管理者
評議員	藤本 亨	伊勢市副市長
評議員	広森 繁	亀山市副市長
評議員	吉田 桂治	いなべ市副市長
評議員	木村 光宏	川越町副町長
評議員	水谷 優兆	三重県県土整備部長

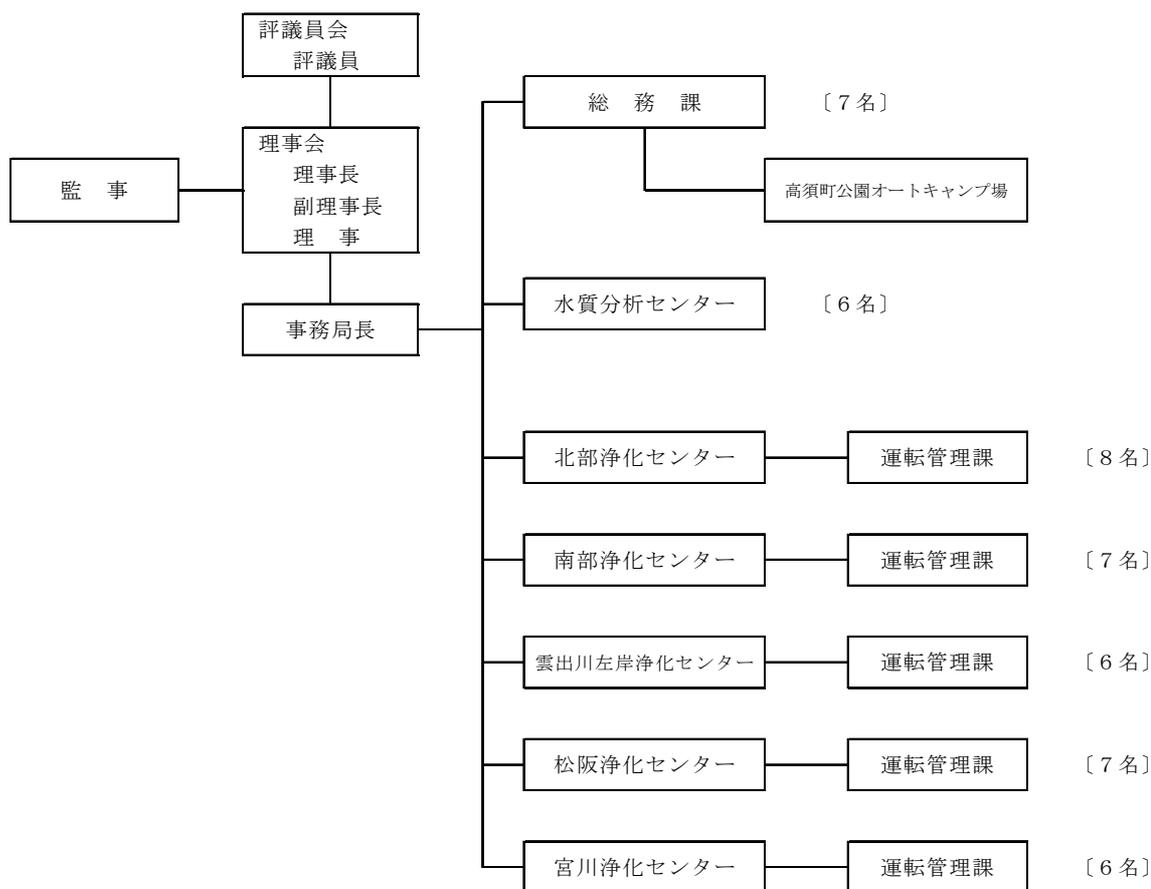
【理事 任期：平成27年6月30日から平成28年度に関する定時評議員会終結の時まで】

【理事※ 任期：平成28年5月9日から平成29年度に関する定時評議員会終結の時まで】

【監事 任期：平成25年4月1日から平成28年度に関する定時評議員会終結の時まで】

役職名	氏名	所属及び職名
理事長	稲垣 司	公益財団法人三重県下水道公社 ※
副理事長	藤田 隆憲	四日市市上下水道局管理部長
理事	佐藤 邦夫	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授
理事	高屋 充子	きれいな伊勢志摩づくり連絡会議 会長
理事	山本 浩和	株式会社 百五総合研究所 主席研究員
理事	西川 昌宏	松阪市上下水道部 次長
理事	川村 茂樹	鈴鹿市上下水道局 次長
理事	大橋 克哉	菰野町下水道課長
理事	中西 豊	玉城町上下水道課長
理事	満 仲朗夫	三重県県土整備部流域整備担当 次長
監事	松下 裕也	税理士
監事	駒田 早人	朝日町上下水道課長

(7) 組織体制



(8) 評議員会及び理事会の運営状況

ア 評議員会

	事 項
平成28年 5月9日	書面決議（みなし決議）による評議員会 議 事 第1号議案 評議員の選任について 第2号議案 理事の選任について
6月29日	平成28年度定時評議員会 議 事 第1号議案 平成27年度財務諸表の承認について 第2号議案 公益財団法人三重県下水道公社役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について 報告事項 報告事項1 平成27年度事業報告について 報告事項2 平成28年度事業計画及び収支予算について 報告事項3 平成28年度事業取組方針について

イ 理事会

	事 項
平成28年 5月30日	平成28年度第1回通常理事会 議 事 第1号議案 平成27年度事業報告及び収支決算並びに財産目録の承認について 第2号議案 規程の一部改正等について 第3号議案 常勤役員に対する期末手当の支給率について 第4号議案 定時評議員会の招集について 第5号議案 代表理事（理事長）及び副理事長の選定について 報告事項 報告事項1 平成28年度事業取組方針について 報告事項2 理事長及び副理事長の職務執行の状況について
11月28日	書面決議（みなし決議）による理事会 議 事 第1号議案 債務負担行為の補正について
平成29年 3月27日	平成28年度第2回通常理事会 議 事 第1号議案 公益財団法人三重県下水道公社下水道排水設備工事責任技術者認定事業準備資金取扱規程の制定について 第2号議案 公益財団法人三重県下水道公社下水道排水設備工事責任技術者認定事業準備資金の積立等について 第3号議案 普及啓発事業積立資産の一部取崩しについて 第4号議案 平成29年度事業計画及び収支予算（案）について 第5号議案 公益財団法人三重県下水道公社育児・介護休業等に関する規程の一部改正について 第6号議案 公益財団法人三重県下水道公社下水道排水設備工事責任技術者試験等に関する規程の一部改正について 第7号議案 債務負担行為の設定について 報告事項 報告事項1 平成28年度収支決算見込みの概要について 報告事項2 理事長及び副理事長の職務執行の状況について 報告事項3 平成29年度定時評議員会をもって任期満了となる役員の改選について

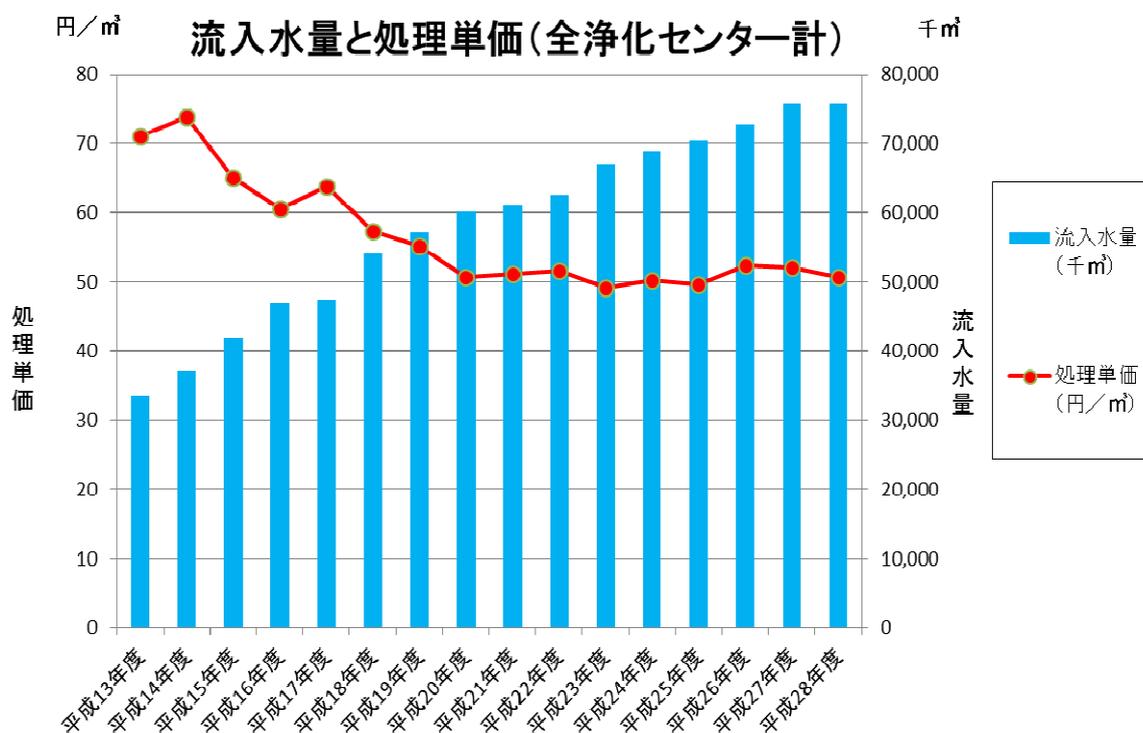
3 事業実績報告

(1) 流域下水道の維持管理に関する業務

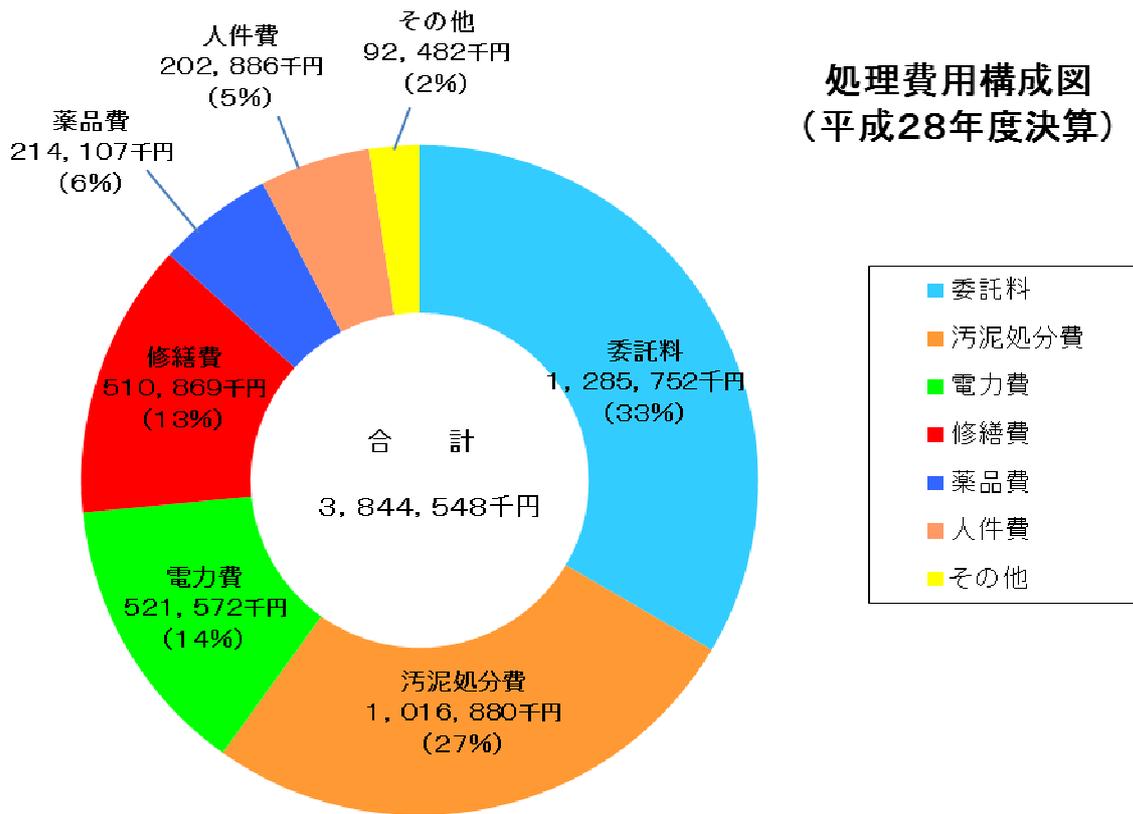
流域下水道施設（終末処理場5カ所及びポンプ場13カ所）の維持管理の状況は次のとおりです。

ア 処理水量と処理に要した経費一覧

		処理水量	処理費用	処理単価	
北部 浄化センター	28年度	35,479,633 m ³	1,419,716,886 円	40.01 円/m ³	97.1%
	27年度	35,668,091 m ³	1,470,340,373 円	41.22 円/m ³	
南部 浄化センター	28年度	14,937,641 m ³	728,303,247 円	48.76 円/m ³	97.0%
	27年度	14,703,794 m ³	739,399,767 円	50.29 円/m ³	
雲出川左岸 浄化センター	28年度	9,157,129 m ³	550,173,868 円	60.08 円/m ³	100.4%
	27年度	9,355,838 m ³	559,770,266 円	59.83 円/m ³	
松阪 浄化センター	28年度	9,926,976 m ³	657,333,651 円	66.22 円/m ³	99.9%
	27年度	9,989,872 m ³	661,584,170 円	66.23 円/m ³	
宮川 浄化センター	28年度	6,388,685 m ³	489,019,852 円	76.54 円/m ³	91.7%
	27年度	6,203,394 m ³	517,658,808 円	83.45 円/m ³	
合 計	28年度	75,890,064 m ³	3,844,547,504 円	50.66 円/m ³	97.4%
	27年度	75,920,989 m ³	3,948,753,384 円	52.01 円/m ³	



処理費用構成図
(平成28年度決算)



イ 放流水質

平成28年度における各浄化センターの放流水質は、北部浄化センター及び南部浄化センターにおいて、台風16号(9月20日～21日)の大雨により、不明水が大量流入したことから、長時間に亘る併用処理が影響し、北部浄化センターにあってはBOD、南部浄化センターにあってはSSの水質項目が一時的に悪化する結果となりましたが、その他の浄化センターにおいては、良好な水質を維持しました。

		BOD(mg/L)	COD(mg/L)	SS(mg/L)	T-N(mg/L)	T-P(mg/L)
北部 浄化センター	法令基準値	15	20	40	13	1.4
	実績	※18	15	35	9.6	1.4
		1.6	6.8	2	7.0	0.8
南部 浄化センター	法令基準値	10 (10)	— (20)	40 (10)	11 (10)	2.2 (—)
	実績	8.6	12	※11	8.9	1.3
		3.2	8.4	2	5.7	0.6

※ 最大値は、台風16号(平成28年9月20日～21日)に伴う大雨の影響によるもので、下水道法の適用を受ける状況とは異なる。

()は、鈴鹿川浄化対策協議会との覚書値

雲出川左岸 浄化センター	法令基準値	15	100	40	18	1.6
	実績 最大値	13	10	13	10	1.1

		平均值	2.3	7.5	2	8.3	0.7
松阪 浄化センター	法令基準値		15	100	40	10	1.0
	実績	最大値	1.7	7.6	2	9.1	0.9
		平均值	1.0	6.6	0	7.6	0.5
宮川 浄化センター	法令基準値		15	—	40	10	1.0
	実績	最大値	2.8	9.0	3	8.8	0.9
		平均值	1.3	7.3	0	6.4	0.4

BOD（生物化学的酸素要求量）… 水中に含まれる有機物質が一定の条件において、好気性微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量のこと、有機汚濁物質の指標である。

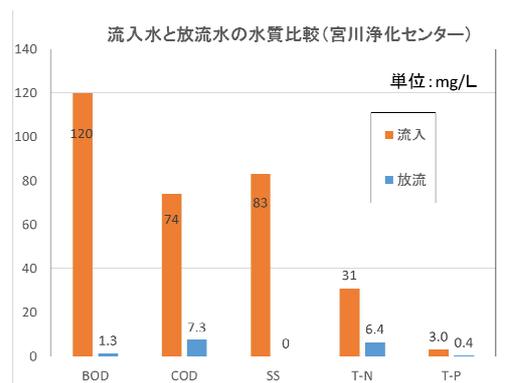
COD（化学的酸素要求量）… 水中の被酸化性物質が、一定の条件において酸化剤によって酸化されるのに要する酸素量のこと、BODと同じく汚濁物質を意味する。

SS（浮遊物質）… 水中に浮遊又は懸濁している物質の量のことをいう。

T-N（全窒素）… し尿、工場排水、肥料等の混入に起因し、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素に有機性窒素を合わせたものをいう。

T-P（全りん）… し尿、工場排水、肥料等の混入に起因する。

特に高度処理施設が設置されている三重県の流域下水道施設は T-N（全窒素）、T-P（全りん）の除去効率の向上が求められています。そのため、法令基準値に対する実績値だけでなく、全窒素、全りんの除去率も運転管理の要素として重視しています。



ウ 電力調達実績

浄化センター施設の運転に電力は欠かせませんが、処理水量 1 m³あたりの電力使用量の抑制に努めました。なお、燃料調整費を反映した平均単価の下落もあって、電力費は前年比 17.5%の減となりました。

		契約種別	契約電力 (kW)	調達量 (kWh/年)	1m ³ あたりの電力使用量 (kWh/m ³)	電力費 (円)	平均単価 (円/kWh)
北部 浄化センター	28年度	特別	3,000	17,165,920	0.484	204,049,287	10.86
	27年度	高圧	2,700	16,156,180	0.453	239,250,551	13.29
南部 浄化センター	28年度	高圧	1,200	7,754,940	0.519	95,676,874	11.59
	27年度		1,200	7,739,731	0.526	119,273,579	14.06
雲出川左岸 浄化センター	28年度	高圧	900	5,299,680	0.579	66,892,691	11.59
	27年度		900	5,471,232	0.585	84,992,890	14.06

松阪 浄化センター	28年度	高圧	920	5,718,039	0.576	71,401,259	11.59
	27年度		940	5,556,439	0.556	87,001,540	14.06
宮川 浄化センター	28年度	高圧	710	4,675,669	0.732	57,513,422	11.59
	27年度		710	4,529,677	0.730	69,952,412	14.06
合 計	28年度			40,614,248		495,533,533	
	27年度			39,453,259		600,470,972	

※ 当該実績表は浄化センターのみであり、場外施設は含まない。

平均単価は基本料金を除く、昼間、夜間時間の電力単価を合算して求めたものである。

エ 機能保全（修繕）実績

安定した水処理機能の維持を図るため、当初計画した計画修繕（分解整備等）及び緊急修繕としての機能保全業務を実施しました。主な内容は次のとおりです。

	内 容	金額（円）
北部 浄化センター	脱水機棟No.15 ミリングロール HPB 緊急取替修繕工事 ※	10,800,000
	No.31, 41 送風機、No.41 送風機用放風弁電油操作器修繕工事 ※	5,216,400
	B1系No.11, 21 返送汚泥ポンプ、No.11, 12 余剰汚泥ポンプ分解点検工事	10,357,200
	B1系No.00, 11, 21 循環ポンプ分解点検工事	16,524,000
	No.12・No.14 汚泥脱水機分解点検工事	45,360,000
	No.A31, A32, A41, A42 返送汚泥ポンプ分解点検工事	22,680,000
	A211～A218、A221～A228 反応槽攪拌機分解点検工事	18,694,800
	No.04 細目スクリーン除塵機分解点検工事	14,483,880
南部 浄化センター	No.2 汚泥脱水機分解整備工事	19,332,000
	No.1、No.2 浮上濃縮装置分解整備工事	14,796,000
	No.2-2 送風機分解整備工事	11,826,000
	No.1 汚泥脱水機緊急修繕工事 ※	6,804,000
	SP棟スクリーンかす搬出機等分解整備工事	24,408,000
	脱水機棟No.1、No.2 ケーキコンベヤ緊急修繕工事 ※	12,150,000
雲出川左岸 浄化センター	汚泥処理設備4号汚泥脱水機他分解整備工事	33,480,000
	急速ろ過設備逆洗排水ポンプ修繕工事 ※	9,985,680
松阪 浄化センター	No.1 及びNo.4 送風機分解整備工事	5,427,000
	山添ポンプ場他破砕機分解整備工事	7,020,000
	No.2-1 主ポンプ及びNo.3 放流ポンプ分解整備工事	22,680,000
宮川 浄化センター	No.2 汚泥脱水機ローラ取替修繕工事 ※	7,344,000
	1系No.1-1 初沈汚泥ポンプ他分解整備工事	5,616,000
	No.3 汚泥造粒調質装置分解整備工事	12,960,000

※ 工事名末尾の「※」印は、緊急修繕工事

オ 汚泥処理実績

各浄化センターで発生する脱水ケーキ等は、ほぼ全量セメント原料としてリサイクルしました。なお、しっし汚泥及び沈砂汚泥の処分は焼却業者に処理を委託しました。

		汚泥処理量			平均 含水率	発生 係数
		脱水ケーキ	しっし汚泥	沈砂汚泥		
北部 浄化センター	28年度	21,988.28 t	60.53 t	109.85 t	74.5%	0.000620
	27年度	21,920.00 t	98.86 t	124.22 t	74.3%	0.000615
南部 浄化センター	28年度	9,464.56 t	4.67 t	—	73.0%	0.000634
	27年度	9,230.30 t	4.66 t	4.91 t	72.6%	0.000628
雲出川左岸 浄化センター	28年度	6,631.18 t	3.36 t	5.59 t	73.7%	0.000724
	27年度	6,223.28 t	—	—	74.4%	0.000665
松阪 浄化センター	28年度	7,787.86 t	5.82 t	—	73.8%	0.000785
	27年度	7,699.44 t	10.71 t	—	73.7%	0.000771
宮川 浄化センター	28年度	5,397.62 t	5.97 t	—	74.5%	0.000845
	27年度	4,817.13 t	5.83 t	—	73.8%	0.000777
合 計	28年度	51,269.50 t	80.35 t	115.44 t		
	27年度	49,890.15 t	120.06 t	129.13 t		

※ 発生係数：脱水ケーキ発生量を流入水量で除したものの

カ 普及啓発施設管理業務

中勢沿岸流域下水道松阪処理区高須町公園の維持管理業務を実施しました。

なお、同公園内における高須町公園オートキャンプ場の利用実績は、次のとおりです。

利用人員：6,913人（対前年比：105.8% 27年度：6,535人）

(2) 維持管理におけるコスト削減取組

浄化センターのコスト縮減について、公社全体で取組方針を設定し、個別に運用を行いました。主な取組事例と成果は次のとおりです。

【省エネルギー】

	取 組 事 例	実 績
北部 浄化センター	1系水処理脱臭ファンの交互運転 約 48,100kwh/年の削減効果	1 m ³ あたりの電力使用量 +6.8% 0.453kWh/m ³ → 0.484kWh/m ³
南部 浄化センター	循環ポンプの稼働台数制限 約 525,600kwh/年の削減効果 水中攪拌機の稼働台数制限 約 262,800kwh/年の削減効果 紫外線消毒装置の稼働台数制限 約 175,200kwh/年の削減効果	1 m ³ あたりの電力使用量 △1.3% 0.526kWh/m ³ → 0.519kWh/m ³

雲出川左岸 浄化センター	揚水ポンプの号機選択の徹底 約 219,900kWh/年の削減効果 水中攪拌機の間欠運転 約 471,300kWh/年の削減効果	1 m ³ あたりの電力使用量 △1.0% 0.585kWh/m ³ → 0.579kWh/m ³
松阪 浄化センター	急速ろ過施設のバイパス運転 約 117,100kWh/年の削減効果	1 m ³ あたりの電力使用量 +3.6% 0.556kWh/m ³ → 0.576kWh/m ³
宮川 浄化センター	水中攪拌機の間欠運転 約 291,700kWh/年の削減効果 分離液攪拌機の稼動時間制限 約 9,200kWh/年の削減効果	1 m ³ あたりの電力使用量 +0.3% 0.730kWh/m ³ → 0.732kWh/m ³

※ 北部浄化センターにおいては、脱水機の故障停止により、省エネ効果が高い水中攪拌機の間欠運転時間を変更せざるを得なかったことから、年間の電力使用量は増加しております。また、松阪浄化センターにおいては、中央監視設備及び脱水機の更新工事に伴い、運転条件が昨年度と異なったことにより、水処理設備への送風量が増えたため電力使用量が増加しました。

【薬品使用量】

	取組事例	実績
北部 浄化センター	ポリ塩化アルミニウム (PAC) の使用量原 単位削減 ※ 原単位:1 m ³ あたりの使用量	使用量: 508,000 ㍓ → 521,960 ㍓ 原単位: 0.0142 ㍓/ m ³ → 0.0147 ㍓/ m ³ + 3.5%
南部 浄化センター		使用量: 102,845 ㍓ → 84,984 ㍓ 原単位: 0.0070 ㍓/ m ³ → 0.0057 ㍓/ m ³ △18.6%
雲出川左岸 浄化センター		使用量: 68,470 ㍓ → 109,743 ㍓ 原単位: 0.0073 ㍓/ m ³ → 0.0120 ㍓/ m ³ +64.4%
松阪 浄化センター		使用量: 59,720 ㍓ → 58,510 ㍓ 原単位: 0.0060 ㍓/ m ³ → 0.0059 ㍓/ m ³ △ 1.7%
宮川 浄化センター		使用量: 55,563 ㍓ → 49,696 ㍓ 原単位: 0.0090 ㍓/ m ³ → 0.0078 ㍓/ m ³ △13.3%

※ 雲出川左岸浄化センターにおいては、平成27年度に発生した水質事故を受け、処理水質の安定を目的とした薬品の注入条件に変更した運転の影響から一時的に薬品使用量は増加しております。

(3) 危機管理に関する取組

ア 安定的なサービス提供に関する取組

処理場機能を低下させるような有害物質の流入はありませんでしたが、6月から9月にかけての大雨等による流入水の増加に伴い、宮川浄化センターを除く4浄化センターにおいて、空き池貯留等の対応を合計で8回行いました。また、1月には雲出川左岸浄化セン

ターにおいてpH異常水質の流入に伴い、流入水pHが通常範囲に回復するまで空き池貯留を行いました。いずれの際も利用者への使用制限はなく、法令基準値を遵守し処理を行いました。

イ 災害対応訓練の実施

県、流域市町と連携した危機管理伝達訓練を4月14日に実施しました。

また、県（下水道課、中勢流域下水道事務所）と連携して、松阪処理区を対象に震災直後の対応を検討する図上訓練を下水道業務継続計画（下水道BCP）に基づき、1月23日に実施しました。なお、各浄化センターにおいては、災害時を想定した図上訓練をそれぞれ実施しております。

（4）普及啓発事業

ア 下水道ポスターコンクール

次世代を担う児童からポスターを募集し、その作品を活用して循環する資源である水の性質や家庭で出来る水環境対策の啓発を行うことにより、下水道への理解と協力を深めていただくため、下水道ポスターコンクールを開催しました。

募集作品：絵画ポスター

応募対象：県下小学生（4年生から6年生）

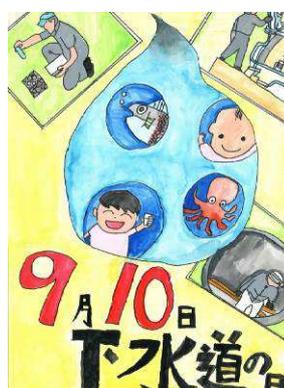
応募作品数：65校 464点（平成27年度：66校 599点）

入賞：三重県知事賞（1作品）、三重県下水道公社理事長賞（1作品）

浄化センター所長賞（5作品）、入選（15作品）



三重県知事賞



三重県下水道公社理事長賞

なお、入賞作品については、作品集を作成のうえホームページに掲載するとともに、次の施設において入賞作品の展示会を行いました

三重県総合博物館 Mi e Mu [平成28年12月6日～12月16日]

三重県庁 県民ホール [平成29年1月10日～1月20日]

松阪ショッピングセンター マーム [平成29年1月23日～1月30日]

イオンモール四日市北 [平成29年2月6日～2月13日]

イオンモール鈴鹿 [平成29年2月15日～2月19日]

イオンタウン伊勢ララパーク [平成29年3月2日～3月8日]

三重県立みえこどもの城 [平成29年3月11日～3月20日]

イ 浄化センター見学会

通年事業として、浄化センターの見学会を実施しました。

平成28年度は4,111名（対前年比：89.4%、27年度：4,600名）の方々が来場し、浄化センターの仕組みや下水道の役割に加え、「下水道の正しい使い方」など、利用者にも協力してもらいたいことに力を入れて、啓発を行いました。

【見学者来場状況】

（単位：人）

	北部	南部	雲出川左岸	松阪	宮川	合計
行政関係者	74	18	—	15	1	108
学校関係者	1,537	818	285	280	519	3,439
一般	29	117	3	176	239	564
合計	1,640	953	288	471	759	4,111



水処理施設を見学

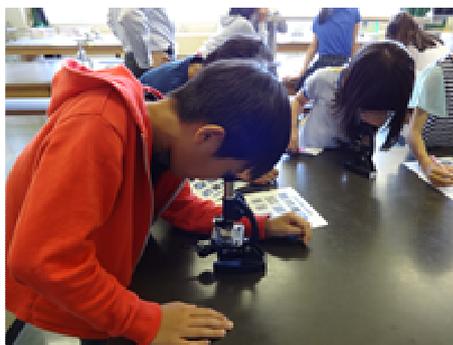


顕微鏡を使って微生物を観察

ウ 下水道出前教室の開催

浄化センター職員が小学校へ出向き、水の循環、下水道の仕組みの説明、水質の簡易測定実験、トイレトペーパーの分散実験、顕微鏡による微生物の観察など、実験を中心にした授業を実施しました。平成28年度は三重県中勢流域下水道事務所及び流域関連市町の協力を得て、雲出川左岸浄化センター及び松阪浄化センターの管内である津市、松阪市、多気町を対象に、29校、計1,337名（対前年比109.2%）に対し実施しました。

児童にとっては、下水道の正しい使い方を勉強することで、環境保全に寄与できることが実験を通じて理解できたと考えています。また、小学校からも「様々な実験・観察があり、子どもたちは興味をもって学習に取り組むことができました。」と良い評価を得ることができました。



エ インターンシップ研修生の受入れ



高校生に将来設計などを考える機会を提供する場として、11月15日から17日の3日間、北部浄化センターに県立四日市中央工業高等学校化学工学科から4名のインターンシップ研修生を受け入れ、水質分析業務の実務研修を実施しました。なお、研修後、同校からは「生徒が進路を考えるうえで貴重な経験となった。」との評価を受けるとともに、研修生からは「働くことの厳しさを実感した。今回の貴重な体験を今後活かしたい。」といった感想が寄せられました。

オ 県との協働

県下水道課と協働し、県主催のイベントでブース出展を行い、PRに努めました。

県民の日 [平成28年4月16日：三重県総合文化センター]

下水道のしくみポスター及びポスターコンクール入賞作品の展示

夏のエコフェア2016 [平成28年7月23日～24日：三重県環境学習情報センター]

出展ブースにおいては、下水道のしくみをポスターで説明、下水処理で働く微生物を顕微鏡で観察するとともに、ペットボトルを使用してトイレトーパーとティッシュペーパーの分散実験を通じて、毎日の生活における下水道への興味や関心を高める機会として活用しました。

なお、出展ブースへは、約2,000名の方々に来場いただきました。

カ 流域市町との協働

津市、松阪市、鈴鹿市、四日市市及び伊勢市の各下水道担当部局との協働により、次の出前教室、啓発イベントを実施いたしました。

なお、イベント・ブース出展では、電動式の説明パネル、デザインマンホール展示、下水処理で働く微生物を顕微鏡で観察するなど合わせて、下水道の使い方に関するお願いを中心に啓発を行いました。

【9月10日は下水道の日】

津市 [平成28年9月7日：津市立榊原小学校（出前教室）]

松阪市 [平成28年9月10日：アピタ松阪 三雲店]

鈴鹿市 [平成28年9月11日：イオンモール鈴鹿]



アピタ松阪 三雲店の様子



イオンモール鈴鹿の様子

【生活排水対策キャンペーン】

四日市市 [平成 28 年 9 月 25 日：イオンモール四日市北店]

[平成 28 年 10 月 2 日：イオン四日市尾平店]

【伊勢市環境フェア】

伊勢市 [平成 28 年 10 月 9 日：三重県営サンアリーナ]

(5) 研修事業

市町下水道担当職員研修

下水道に携わる市町職員が下水道管理に係る基礎知識を習得することを目的として、九州テクニカルメンテナンス㈱、三重県保健環境研究所から講師を招き、平成 29 年 3 月 2 日に午前の部として南部浄化センターにおいて、午後の部として宮川浄化センターにおいて下記のテーマにより市町下水道担当職員研修会を開催し、11 市町、県関係機関及び施設点検運転監視業務受託業者などから 118 名の参加がありました。

【研修テーマ】

- 1 「熊本地震における行動記録（益城町浄化センター）」
～被災から復旧まで、そのとき現場で何が起こったか～
- 2 「閉鎖性水域である伊勢湾の再生研究」
～底泥を調べて分かったこと～

(6) 調査研究事業

公益社団法人日本下水道協会の主催による「第 53 回下水道研究発表会」（於 ウィンクあいち）が平成 28 年 7 月 26 日から 28 日に開催され、研究成果として次のテーマについて発表を行いました。

「A₂O 高度処理施設における凝集剤（PAC）注入量の削減に関する研究」

(7) 下水道排水設備工事責任技術者認定事業

県下 29 市町の要請を受け、下水道排水設備工事責任技術者の資格を更新する更新講習及び技術者を認定する試験業務を実施しました。

時期	内容
10 月 6 日、21 日 11 月 8 日	資格者更新講習実施（伊勢、四日市、津の 3 会場にて実施）
11 月 30 日	試験実施（申込者：101 名、合格者数：45 名）

【下水道排水設備工事責任技術者有資格者数：平成 29 年 3 月 31 日現在 4, 171 名】